

皇軍遺跡調査報告書

一 復員者（引揚者）宿舎慰問並驛頭見送

昭和二十二年三月十八日附援護局總務部長「達」を以て祖國上陸第一

歩の復員者（引揚者）に同胞愛の誠心と捧げるため宿舎慰問と宇高駅

出発の際の見送りを実施すべしとになり各部課交代實施して復員者に

多大の感銘を興へた

二 廣島上陸地案内（パンフレット）の送付

昭和二十二年五月三日廣島上陸地案内（廣島上陸地支局復員）のパン

フレットを複製して現地軍に送付し復員者（部隊）の宇高上陸時の

参考に資した

内容は左の通りである

(35) (一) 廣島上陸地支局及関係機構配置要図

0324

- (一) 守品に於ける引揚援護及復員業務取扱官署
- (二) 編成表
- (三) 職員表
- (四) 班船乗組員名簿
- (五) 業務分担表
- (六) 宇岳援護所内案内図
- (七) 外地引揚者處理能力概況表
- (八) 陸地に於ける援護並復員業務一覽表
- (九) 復員業務行程一覽表
- (十) 援護業務一覽表
- (十一) 收容より復員退所迄の行事一覽表
- (十二) 援護局機構一覽表

0325

(五) 方面別时期的復員実績表

三 復員式に就て

復員部隊（建制部隊）は復員完結時に（即ち援護所出発直前）復員式を行つて部隊最後の訣別を實施した。意向であつたが進駐軍よりの申入れによつて一切軍隊式の儀禮を禁止せられたので上陸前船内に於て復員式を實施した。

四 英濠軍將校の騎士的處理

昭和二十二年六月十九日宇品入港の笠紫丸に乗船して居た第三十三軍司令部通信班陸軍中尉吉原亮は「ラングーン」出発前後より神経衰弱昂して極度に恐怖的憂鬱となり常軌を逸したる種々の言動があつて軍醫其他同僚にて警戒監視してゐたが宇品入港投錨時監視が稍緩んだ機会に飛込み自殺をした。

(56)

0326

其後約一週間を経て屍体が発見されたのであるがその處置に關して一
般邦人として援護局側（援護課）で取扱ふべきか又は復員者として第
一復員部で取扱ふべきかに就て疑義が出た時濠軍將校は假令入水自殺
者と雖も元將校であるから將校として第一復員部で處置すべきである
と判決を下した。この武士道を解する濠軍將校の判決には吾々の敬服
した次第である。

0327